

平成 23 年度第 6 回修習セミナー報告



広島県 電気電子部門

氏名 小田宗孝

所属 中国支部

3月3日に、第6回修習セミナーが行われましたので、報告致します。3月の開催は初の試みでしたが、13名と数多くの方にご参加いただきました。今回は、昨年9月に台風の接近により中止となった第4回修習セミナーで予定されていた内容で、機械部会、ITビジョンの会、防災委員会、各部会長による、主に災害対応に関する最新の技術情報についての講演が行われました。



セミナー状況は Web 中継を行い、岡山、津山、山口、個人の4ヶ所においても参加していただき、意見交換を行いました。

セミナー内容

1) 機械部会：「リスクと品質のマネジメントについて～原発設備からもの作り、メンテナンスまで」 機械部会長 大丸譲二氏

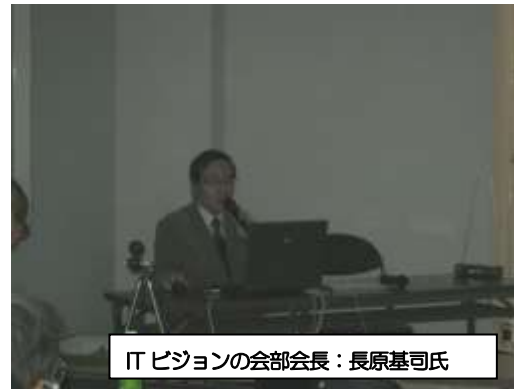


機械部会長：大丸譲二氏

日本の原発設備の現状をおさらいし、原発を含めた設備全般において、「どうすれば安全に使っていいのか」を課題とし、解決手法のひとつであるリスクアセスメントを紹介頂きました。リスクは、危険度の程度×危険の可能性で評価することができ、リスクを事前に洗い出すこと、対策を行うこと、そして継続的に改善することで設備上での災害防止対策が可能になります。

ISO9001 に関しては、求められる姿「顧客満足度と継続的改善」について、品質マネジメント原則の紹介をされ、Q「品質」あってこそそのC「コスト」、D「納期」であることをご説明いただきました。

2) IT ビジョンの会：「クラウドと災害対応」
IT ビジョンの会部会長 長原基司氏



IT ビジョンの会部会長：長原基司氏

最近、新聞紙面でもよく見かける、「クラウドコンピューティング」について、その歴史から、例を交えてわかり易く説明頂きました。クラウドという言葉には明確な定義は無いようですが、サービスとして、**SaaS**(Software as a Services)、**PaaS**(Platform as a Services)、**IaaS**(Infrastructure as a Services)の3種に分

類でき、**SaaS** はメール送受信機能や検索エンジンなどを指し、今まで意図せずに既にクラウドを使用していた事を再認識できました。

IaaS については、物理的に分かれているマシンを仮想サーバとして利用できる機能等を指し、東日本大震災直後において、人捜索や、路線情報等の情報開示において、集中するアクセスの分散に大いに活躍したそうです。

特に、対応にあたっては会社の枠を超えた技術者達が協力し合ってミラーサイトを立ち上げ、情報伝達に大きく貢献されたことを紹介され、クラウドなくして震災直後の対応は困難であったことがよく理解できました。

また、クラウドソーシングを利用して、雇用を創出し、復興支援に役立っていることも紹介されました。

今後の問題点として、「セキュリティ確保」と「技術進歩が早すぎ、法規制が追いついていないこと」を挙げられました。特に後者については、他の技術においても、注目して行くべき点だと考えます。

3) 防災委員会：「東日本大震災の概要と技術士会の活動及び今後の社会資本整備の取組み」 防災委員会委員長：山下祐一氏



東日本大震災の概要、生活に対する影響を定量的に纏められた資料でご説明頂き、改めてその凄まじさを再認識できました。

犠牲になられた方を年齢別で見ると、60歳以上の方が65%以上であり、うち65歳以上が犠牲者全体の半分以上と推定されます。つまり、災害時に要援護者とされる方が、実

際には援護されなかったということです。

今後は自助、共助、公助をわきまえて、自分で自分を守りつつ、「共助」のネットワークを準備しておくことが災害対策のひとつです。

生活に与えた影響として、義援金の配布が遅れていたこと、地震保険に加入していても実際は十分でないことを説明されました。日ごろのリスクマネジメントについては、地域とのコミュニケーションもさることながら、現実的な問題として、災害に備え金銭面での準備も必要であることが理解できました。

震災復興に対する技術士会の取り組みとして、発生3日後の3月14日に、日本技術士会会長によって復興支援の表明が行われ、その後毎月防災対策会議が行われています。

8月には防災連絡会議において、「技術士会は東日本の復興に継続して尽力すると共に、今後予想される災害の防災力の強化、各防災関連団体との連携強化に取り組むこと」が東京宣言として発せられました。広島県の土業連絡会も、現復興対応だけでなく今後も継続的に開催し、防災面で連携する事になりました。

終了後、参加者の方と懇親会を開催しました。痛ましい震災から1年が過ぎ、復興に向けてそれぞれの技術部門でできること等、活発な意見交換が行われました。

これからも修習セミナーは、勉強の場・情報交換の場として開催していきまします。多数のご参加をお願い致します。

